

平成29年度水稻生育診断予測事業速報No. 2

(早植栽培 6月8日調査結果)

平成29年6月9日

栃木県農政部経営技術課

 **茎数は平年よりやや多い。目標茎数が確保でき次第、速やかに間断かん水を開始する。**

 **イネ縞葉枯病の防除を徹底する。いもち病の発生に注意する。**

1 気象概況<< 5月下旬～6月5日 (宇都宮) >>

平均気温は5月下旬が平年より3.0℃高く、6月第1半旬は平年より0.3℃低かった。日照時間は5月下旬は平年比119%、6月第1半旬は170%と多照であり、全般に高温・多照傾向で経過した。降水量は5月下旬は平年比31%、6月第1半旬は87%であり、期間内も平年比48%と少ない状況であった。

梅雨入りは、昨年よりも2日遅く、平年より1日早い6月7日であった。

2 調査結果<< 早植栽培、品種：コシヒカリ >>

(1) 16か所平均 (表1)

草丈は高く (平年比107%)、茎数はやや多く (102%)、葉齢は0.2葉多く、葉色は0.5淡い。葉齢から判断して、生育は2日程度進んでいると考えられる。生育診断値 (葉色×茎数) は平年比90%と小さい。

(2) 分施肥体系の生育 (10か所) (表1、図1～2)

ア 草丈は37.4cmで平年比108%と高く、茎数は402本/m²で平年比97%とやや少ない。
イ 葉齢は8.3葉で平年より0.3葉多く、葉齢から判断すると、生育は平年より2日程度進んでいる。葉色は4.3で平年よりやや淡い。

ウ 生育診断値 (葉色×茎数) は1,745で平年比88%と小さい。

エ イネミズブウムシの発生は6か所、イネドロオイムシは1か所で確認されているが全般に発生程度は低い。なお、イネヒメハモグリバエの発生は確認されていない。

(3) 全量基肥体系の生育 (6か所) (表1、図1～2)

ア 草丈は35.6cmで平年比105%とやや高く、茎数は398本/m²で平年比113%と多い。

イ 葉齢は8.1で平年並であり、葉齢から判断すると、生育は平年並であるが地域により差が見られる。葉色は4.0で平年より薄い。

ウ 生育診断値（葉色×莖数）は1,560で平年比98%とやや小さい。

エ イネミズゾウムシの発生は4か所、イネドロオイムシは4か所で確認されているが、全般に発生程度は低い。イネハモグリバエの発生は確認されていない。

3 技術対策

気象庁地球環境・海洋部発表（平成29年6月8日）の「関東甲信地方 1か月予報」（6月10日から7月9日までの天候見通し）では、“平年と同様に曇りや雨の日が多い”と予想されている。気温、降水量は平年並の確率が40%であるが、日照時間は少ない、平年並の確率がそれぞれ40%である。天候不順にも対応できるよう、以下の点に注意して栽培管理を行う。

(1) 水管理

すでに必要莖数が確保されているほ場では、間断かん水を開始し、過剰分げつにならないよう留意する。莖数が確保されていないほ場では、引き続き、夜間かん水、日中止水（浅水）とし、分げつ発生を促進する。

過繁茂になると籾数過剰、登熟低下、白未熟粒の発生、食味低下を招きやすい。また、分げつが多く莖が細くなると、倒伏を助長するため、必要莖数が確保できしだい、速やかに間断かん水に移行することが重要である。

(2) 加里の追肥

加里は、デンプンの生成、同化産物の移行、根の活性化に重要な働きをする。

窒素の吸収が多いと拮抗作用で加里の吸収は抑制されるため、追肥により積極的に加里濃度を高める必要がある。特に、分げつ盛期以降は加里濃度が低くなるので、出穂前40～45日頃に積極的に加里（成分で4～5 kg/10a）を追肥する。

(3) 病害虫の防除

ア イネ縞葉枯病

農業環境指導センター発表（平成29年5月29日）の「植物防疫ニュース（速報No. 2）」及び5月31日付けで発令された「平成29年度 病害虫発生予察注意報第1号（イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ媒介）」によると、県中南部の保毒虫率は高い状況が続いており、10%を超える地点も複数確認されていることから、本病の発生拡大を防ぐため、地域ぐるみでのヒメトビウンカ防除（発生の多い地域では、箱施用剤の使用＋本田での薬剤散布）の実施を呼びかけている。

イ いもち病（葉いもち）

農業環境指導センター発表（平成29年5月19日）の「平成29年度 病害虫発生予報第2号」によると、葉いもちの発生予想は「やや少」であるが、BLASTAM (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/file/data/Blastam/2017.htm>) による葉いもち感染好適条件判定結果では、6月に入って準感染好適条件が出現し始めている。常発地域、箱施用剤を使用していない地域では、ほ場を良く見回り、早期発見・早期防除に努める。なお、いもち病の防除は、発生前の予防剤（粒剤）施用が効果的である。また、いもち病の発生源となる取置き苗は早急に処分する。

ウ ニカメイガ

農業環境指導センター調査によると、発生は平年並からやや少ないが、一部地点で発生が多い状況にある。箱施用剤を使用していない場合は、被害が出る可能性が高くなるので注意する。

※ 薬剤（登録農薬）はラベルの表示を確認して正しく使用する。

栃木県農業環境指導センターHP (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>)



気象災害による農業被害を未然に防ぐため、
技術対策情報が携帯電話等に直接メール配信される
「とちぎ農業防災メール」のご登録をお願いします！
併せて、気象警報・注意報等が直接メール配信される
「栃木県防災メール」のご登録をお願いします！



↑「とちぎ農業防災メール」
登録はコチラから



↑「栃木県防災メール」
仮登録はコチラから

～栃木県からのお知らせです～

6月～8月は、「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。



- ・安全作業の第一歩！ 農薬散布時の身支度は万全に！
- ・いつものチェック！ 農薬使用の際は、ラベルをよく読み正しく使いましょう！
- ・農薬散布のその前に！ 風量や風向きに注意して、飛散防止に努めましょう！
- ・周辺への配慮！ 住宅地等でやむを得ず農薬を使用する際は十分に配慮しましょう！

4～6月は「春の農作業安全確認運動」の実施期間です。



- 高齢農業者の事故が多発しています！以下のことを心がけましょう。
- ・こまめな休息や健康診断の受診等、疲労回復と健康管理の徹底
 - ・複数人での作業を基本とし、一人での作業の場合は携帯電話を持つ
 - ・歩行型トラクター（耕うん機）でのバックの際は、必ず後方と足元の安全確認